

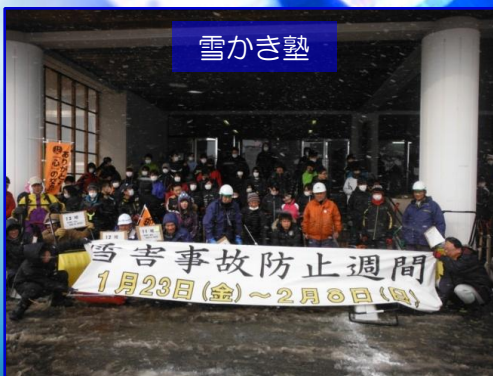
やまがたゆきみらい推進機構



消融雪設備技術展示会



真夏の親子雪体験バスツアー



雪かき塾

平成 27 年度

目 次

| | |
|----------------------------------|----|
| 1. やまがたゆきみらい推進機構の概要..... | 1 |
| 2. 組織図..... | 2 |
| 3. 会員登録状況..... | 3 |
| 4. 平成 27 年度の事業計画..... | 4 |
| 5. 平成 26 年度の実組み..... | 5 |
| 1) 総会・記念講演会の開催..... | 5 |
| 2) 運営幹事会の開催..... | 5 |
| 3) 各専門部会の開催..... | 5 |
| 4) 主な事業活動..... | 6 |
| ① 安全な雪下ろし作業等の普及啓発..... | 6 |
| ② 除雪ボランティア活動の拡大に向けた支援..... | 8 |
| ③ やまがたゆきみらいシンポジウム..... | 9 |
| ④ 雪氷熱エネルギーの利用促進と利用団体等への技術支援..... | 10 |
| ⑤ 真夏の親子雪体験バスツアー..... | 10 |
| ⑥ やまがたゆきみらい雪サロン..... | 11 |
| ⑦ 雪に強い住宅の普及啓発..... | 12 |
| ⑧ 官民協働一斉除排雪..... | 13 |
| ⑨ 事業活動巡回 P R..... | 14 |
| ⑩ やまがたゆきみらい大賞..... | 14 |
| ⑪ 第 7 回こどもゆきみらいコンセプト..... | 15 |
| ⑫ ホームページの運営..... | 16 |
| 6. 役員名簿..... | 17 |
| 7. やまがたゆきみらい推進機構の事業評価..... | 18 |

1. やまがたゆきみらい推進機構の概要

1) 設 立 目 的

産学官民の連携ネットワークにより各機関のノウハウを連携・融合し、具体的で実用的な取組みにより降雪がもたらす県民生活への影響を軽減する。

2) 事 業 内 容

- ・地域の幅広い人的交流機会の提供
- ・研究シーズと事業化ニーズ、県民ニーズのマッチングによる技術移転、研究会活動
- ・情報インフラを活用した情報ステーション機能
- ・雪に関する科学技術関連イベントの開催に対する協力、支援
- ・過疎化、高齢化に対応した雪国のまちづくりに関する活動
- ・その他、雪対策の振興に関する活動

3) 設 立 の 経 緯

- ・世 話 人 会：平成19年 9月25日
- ・発起人会及び設立総会：平成19年10月12日
- ・発 起 人 代 表：山形大学 大場工学部長（当時）

4) 主 な 事 業 活 動

○各専門部会の主なテーマ

- ・克 雪 部 会：克雪住宅及び消融雪設備の普及
- ・ボランティア部会：除雪ボランティア活動の拡大、担い手の育成
- ・利 雪 部 会：雪氷熱エネルギーの利用促進、雪氷熱利用県産品のPR

○村山総合支庁との共催事業

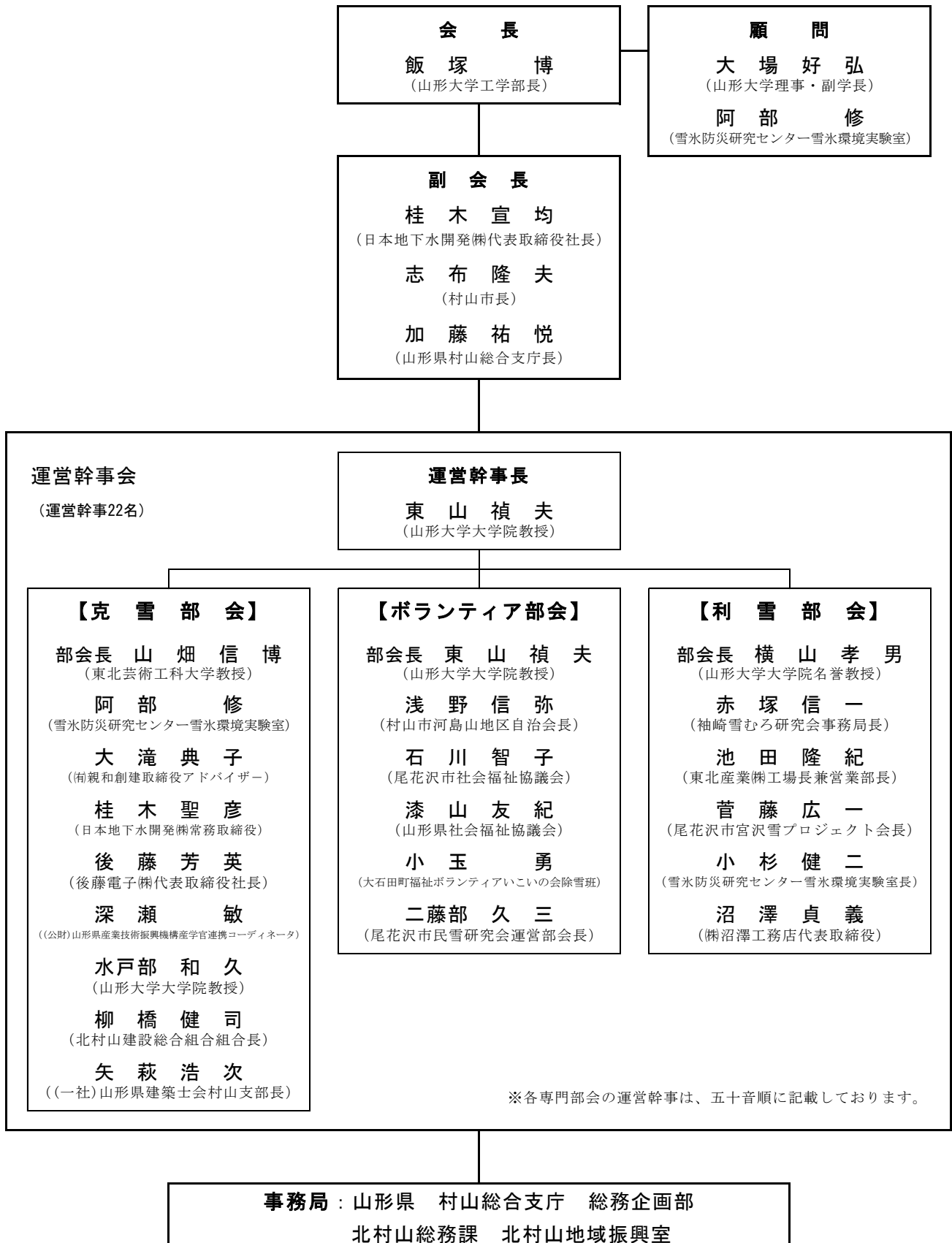
- ・雪対策研修会の開催支援
- ・雪処理担い手育成等の実践研修会
- ・官民協働一斉除排雪
- ・雪処理に関する調査研究
- ・雪氷熱エネルギー利用促進
- ・雪情報の総合案内 など

○単独事業

- ・やまがたゆきみらい大賞
- ・こどもゆきみらいコンセプト

2. 組織図

平成 27 年 5 月 28 日現在



3. 会員登録状況

1) 入会金

- 個人会員 1,000 円
- 法人及び任意団体 3,000 円

2) 会員数

| 会員内訳 | 平成 26 年度末 | 平成 25 年度末 |
|------------------------|-------------------------|------------|
| 個人会員 | 463 | 453 |
| (1) 一般個人 | 154 (33.3%) | |
| (2) 大学研究機関 | 20 (4.3%) | |
| (3) 議会関係 | 11 (2.8%) | |
| (4) 行政関係 | 278 (60.0%) | |
| 法人会員 (法人及び任意団体) | 60 | 59 |
| (1) 企業・民間団体 | 57 (95.0%) | |
| (2) 大学研究機関 | 3 (5.0%) | |
| 合 計 | 523 (前年度比+11) | 512 |

3) 協賛会員 (ホームページへのバナー広告掲載) 【平成 26 年度末】

- ① 株式会社サン・エコ
- ② 株式会社カゲサワ
- ③ 株式会社大仁
- ④ 日本地下水開発株式会社
- ⑤ 株式会社成和技術
- ⑥ フジヒロ株式会社
- ⑦ 株式会社アジアスター
- ⑧ 株式会社さとう電熱

(敬称略・掲載申込順)

4. 平成 27 年度の事業計画

1) 基本方針

専門部会（克雪部会・ボランティア部会・利雪部会）の下、克雪住宅や消融雪設備の普及、除雪ボランティア活動の拡大、雪かき担い手の育成、雪氷熱エネルギーの利用促進、雪氷熱利用県産品のPRなどの活動を展開していく。

2) 事業計画

| 時期 | 事業名 | 備考 |
|----------------|---|---|
| 4月 | ○運営幹事会 | |
| 5月 | ○平成27年度総会・記念講演会 | |
| 6月 | ○新たな取組み提案募集 | 各部会共通 |
| 8月 | ○真夏の親子雪体験バスツアー | 利雪部会 |
| 10月 | ○雪サロン 「消融雪設備技術展示・意見交換会」 | 克雪部会 |
| 11月 | ○雪サロン 「除雪ボランティア活動の拡大に向けた情報交換会」 | ボランティア部会 |
| 12月 ～ 3月 | ○雪かき指導者「雪かきマスター」の募集 ○安全な雪下ろし作業等の普及啓発活動 ○官民協働一斉除排雪作業の実施 ○雪処理担い手育成等の実践研修会 ○雪かき体験交流会、共助による地域除雪等への支援 ○やまがたゆきみらい大賞 | ボランティア部会 克雪部会 克雪部会 ボランティア部会 ボランティア部会 各部会共通 |
| 3月 | ○運営幹事会 | |
| 通年 | ○第8回こどもゆきみらいコンセプト ○官民協働除排雪の地区拡大へ向けた取組み ○雪氷熱エネルギー利用促進へ向けた取組み ○雪を活用した地域おこし活動への支援 ○雪氷熱利用県産商品のPRに向けた取組み ○各専門部会の開催（随時） ○ホームページ等による情報発信 | 各部会共通 克雪部会 利雪部会 利雪部会 利雪部会 各部会共通 各部会共通 |

5. 平成 26 年度の取組み

1) 総会・記念講演会の開催

- 期 日 平成 26 年 6 月 4 日 (水)
- 場 所 村山総合支庁本庁舎
- 議 事 平成 25 年度事業及び収支決算、役員選任、平成 26 年度事業及び収支
予算
- 表 彰 平成 25 年度やまがたゆきみらい大賞
受賞者 ながい雪灯り回廊まつり実行委員会
月の沢龍神街道スノーアートフェスティバル実行委員会
- 記念講演会 「雪は宝物」
月山志津温泉雪旅籠の灯り実行委員会 実行委員長 志田昭宏 氏

2) 運営幹事会の開催

- 第 1 回 4/30 山形市市民活動支援センター 平成 25 年度事業報告・収支決算、役員改
選、平成 26 年度事業計画・収支予算
- 第 2 回 9/ 4 村山総合支庁本庁舎 「新たな取組み」提案募集
- 第 3 回 3/ 6 村山総合支庁西庁舎 こどもゆきみらいコンセプトの選定、
やまがたゆきみらい大賞の選定

3) 各専門部会の開催

○克雪部会

- 第 1 回 7/ 2 村山総合支庁北庁舎 平成 26 年度事業計画
- 第 2 回 3/ 6 村山総合支庁西庁舎 平成 26 年度総括、平成 27 年度事業計画

○ボランティア部会

- 第 1 回 7/ 2 村山総合支庁北庁舎 平成 26 年度事業計画
- 第 2 回 2/27 村山総合支庁本庁舎 平成 26 年度総括、平成 27 年度事業計画

○利雪部会

- 第 1 回 7/ 8 村山総合支庁北庁舎 平成 26 年度事業計画
- 第 2 回 2/24 村山総合支庁本庁舎 平成 26 年度総括、平成 27 年度事業計画

4) 主な事業活動

① 安全な雪下ろし作業等の普及啓発

広報活動

○「安全な雪下ろし作業」DVDの放映

県内の各市町村、社会福祉協議会等にDVDを配布し、ロビー等の人の集まる場所で放映し、安全な作業の普及に努めた。

○雪下ろしの安全装備品の展示

安全帯等の雪下ろしに必要な装備品を北村山管内4市町及び北庁舎に展示し、装備の普及を呼びかけた。

【巡回展示の様子】



村山市役所市民ホール
(1/6~1/16)



尾花沢市役所市民ホール
(1/19~1/30)



大石田町役場町民ホール
(2/2~2/13)



東根市役所市民ホール
(2/16~2/27)

○各種イベントにおける啓発

消融雪設備技術展示会、事業活動巡回PRにおいて、来場者へ啓発チラシ・ポケットティッシュを配布し、安全な作業を呼びかけた。

○ホームページによる啓発

「やまがたゆきみらい推進機構」のホームページにおいて、国土交通省が公表した「雪下ろし作業の安全10箇条」を掲載し、事故防止を啓発した。



【雪下ろし安全10箇条(国土交通省)】

街頭啓発活動

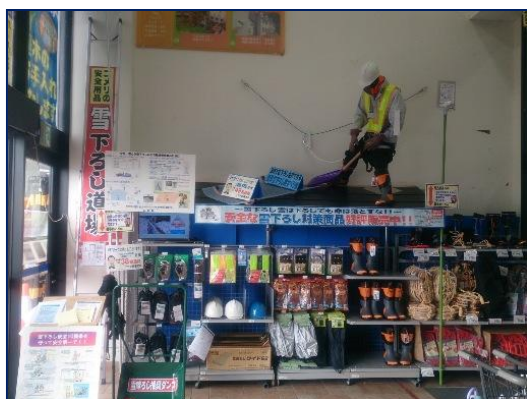
○ホームセンター等における啓発

雪害事故防止週間（1月23日～2月8日）の期間中に、管内のホームセンター、公衆浴場、遊技場と連携し、来客者に啓発チラシ・ポケットティッシュを配布し、安全な作業を呼びかけた。

また、本格的な降雪前に、イオンモール天童をはじめとする県内7か所でパネル展示による啓発を行なった。

○公用車による巡回啓発

平成26年12月19日から、公用車に雪害防止啓発看板を設置し、広報テープを放送しながら管内を巡回し、注意を喚起した。



【コメリパワー東根店での啓発】



【イオンモール天童での啓発】

【参考】

○村山総合支庁の主な取組み

- ・ラジオモンスターによる事故防止の注意喚起（12月22日～）
- ・村山総合支庁豪雪対策関係課長会議（第1次体制）の設置（1月6日）
- ・豪雪による交通障害対応に係る関係機関連絡会議（12月9日）
- ・雪害対策に関する連絡会議（12月11日）
- ・農業分野での雪害防止巡回広報、生産者へのチラシ配布（1月20日～）

○県庁市町村課の主な取組み

- ・雪害事故防止週間（1月23日～2月8日）の設定による集中的な広報啓発
- ・雪下ろし講習会の開催（西川町、酒田市、白鷹町、長井市、鮭川村、大蔵村、大石田町の7市町村）
- ・県政番組「やまがたサンデー5」、県政ラジオ「フレッシュインフォメーションやまがた・やまがたりビングインフォメーション」による広報
- ・文字放送（NHK山形、テレビユー山形）による広報
- ・山形県雪情報システムによる情報提供（11月20日～3月31日）

② 除雪ボランティア活動の拡大に向けた支援

雪かき指導者認定制度の運営

除雪ボランティア活動を行なう団体や個人に対して、安全な雪かきに関する知識や技術を教示し、安全な除雪活動を推進させていく雪かき指導者（雪かきマスター）を認定する制度を運営しています。（平成26年度末認定者：53名）

雪かきマスターは、雪かき体験交流会、共助による地域除雪をはじめとする除雪ボランティア活動で活躍しています。

【認定講習会の様子】



雪かき塾の開催支援

中高生を対象とした将来の雪処理の担い手を育成するための除雪ボランティア活動を支援しました。

○開催校

尾花沢市立尾花沢中学校・常盤中学校（1月28日、参加生徒110名）

○参加校（～H26）

尾花沢市立尾花沢中学校、尾花沢市立常盤中学校、大石田町立大石田中学校、山形県立北村山高等学校



雪かき体験交流会及び共助による地域除雪への支援

災害時支援協定等による地域間交流を通じた雪かき体験ボランティア活動や同じ地域の住民による高齢者等要援護世帯の除排雪活動を支援しました。

○雪かき体験交流会

| 期日 | 場所 | 協定等締結先 | 参加者数 |
|--------|----------|------------|------|
| 1月24日 | 大石田町 | 宮城県涌谷町 | 66名 |
| 1月31日 | 尾花沢市 | 宮城県岩沼市 | 104名 |
| 2月7～8日 | 尾花沢市鶴子地区 | 仙台市宮城野区福住町 | 27名 |

○共助による地域除雪

| 期日 | 場所 | 参加者数 |
|-------|----------|------|
| 2月22日 | 尾花沢市寺内地区 | 58名 |



③ やまがたゆきみらいシンポジウム

総会・記念講演会



○期日・会場

6月4日(水) 村山総合支庁本庁舎(山形市)

○講演・講師

『雪は宝物』

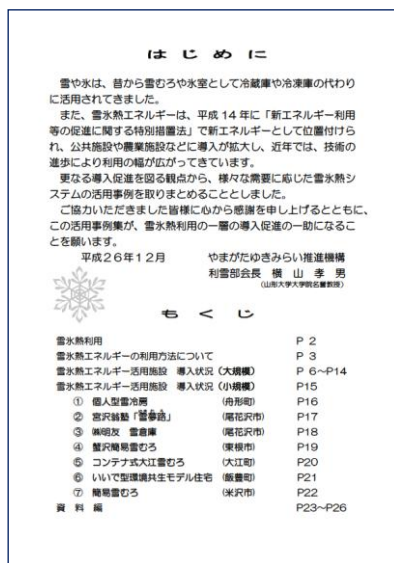
月山志津温泉 雪旅籠の灯り実行委員会 実行委員長 志田 昭宏 氏

○参加者

71名

④ 雪氷熱エネルギーの利用促進と利用団体等への技術支援

雪氷熱エネルギー利用に取り組む団体等に対して技術的な支援を行うとともに、今後の導入促進に向けて事例を取りまとめた「雪氷熱エネルギー活用事例集」を発行しました。



⑤ 真夏の親子雪体験バスツアー

雪氷研究施設や雪氷熱エネルギー利用施設、雪国の歴史等の学習機会を提供した。

○期 日 8月8日(金)

○場 所 J A新庄市ゆきむろ新庄かむろ倉庫、雪の里情報館、
雪氷防災研究センター新庄雪氷環境実験所

○参加者 13組 32名の親子



【真夏の雪体験】



【雪の歴史の学習】



【雪むろの見学】



【出発式】

⑥ やまがたゆきみらい雪サロン

消融雪設備技術展示会



○期日・会場

10月25日(土)～26日(日)
山形県総合運動公園駐車場(天童市)
(山形県農林水産祭と併催)

○来場者

約700名

○出展者

7社

【各出展者ブースの様子】



日本地下水開発株式会社



後藤電子株式会社



サン・エコ株式会社



株式会社大仁



株式会社カゲサワ



有限会社ゆきくに



株式会社 ScutSystem

～除雪ボランティア活動の拡大に向けて～ 意見交換会 in 最上



○期日・会場

11月29日(土)
最上広域交流センター「ゆめりあ」(新庄市)

○参加者

45名

○コーディネーター

山形大学大学院教授 東山 禎夫 氏

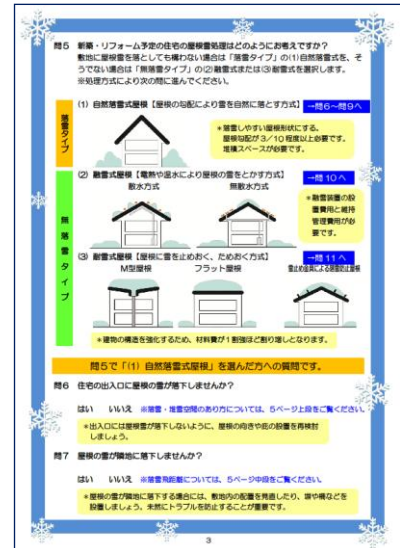
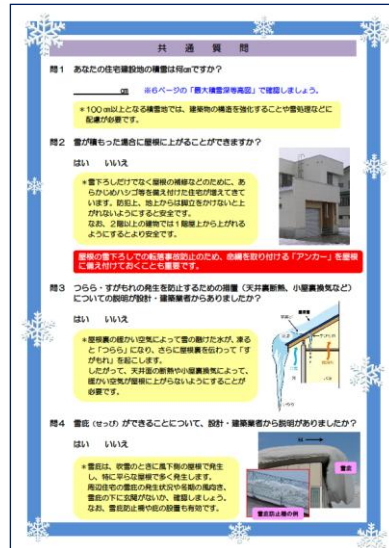
○参加団体

各ボランティア団体、最上管内各市町村社会福祉協議会・雪対策担当課 等

⑦ 雪に強い住宅の普及啓発

屋根雪処理チェックシートの改訂 (H27. 1)

平成 23 年 8 月に発行した住宅の屋根雪の問題を自己点検できる「屋根雪処理チェックシート」について、より使いやすく改訂し、公表しました。



【参考】これまでの克雪住宅に関する取組み

○雪に強い住宅モデル模型の制作 (H23. 5)



○屋根雪処理チェックシートの発行 (H23. 8)



○雪国の住まいハンドブックの発行 (H24. 11)

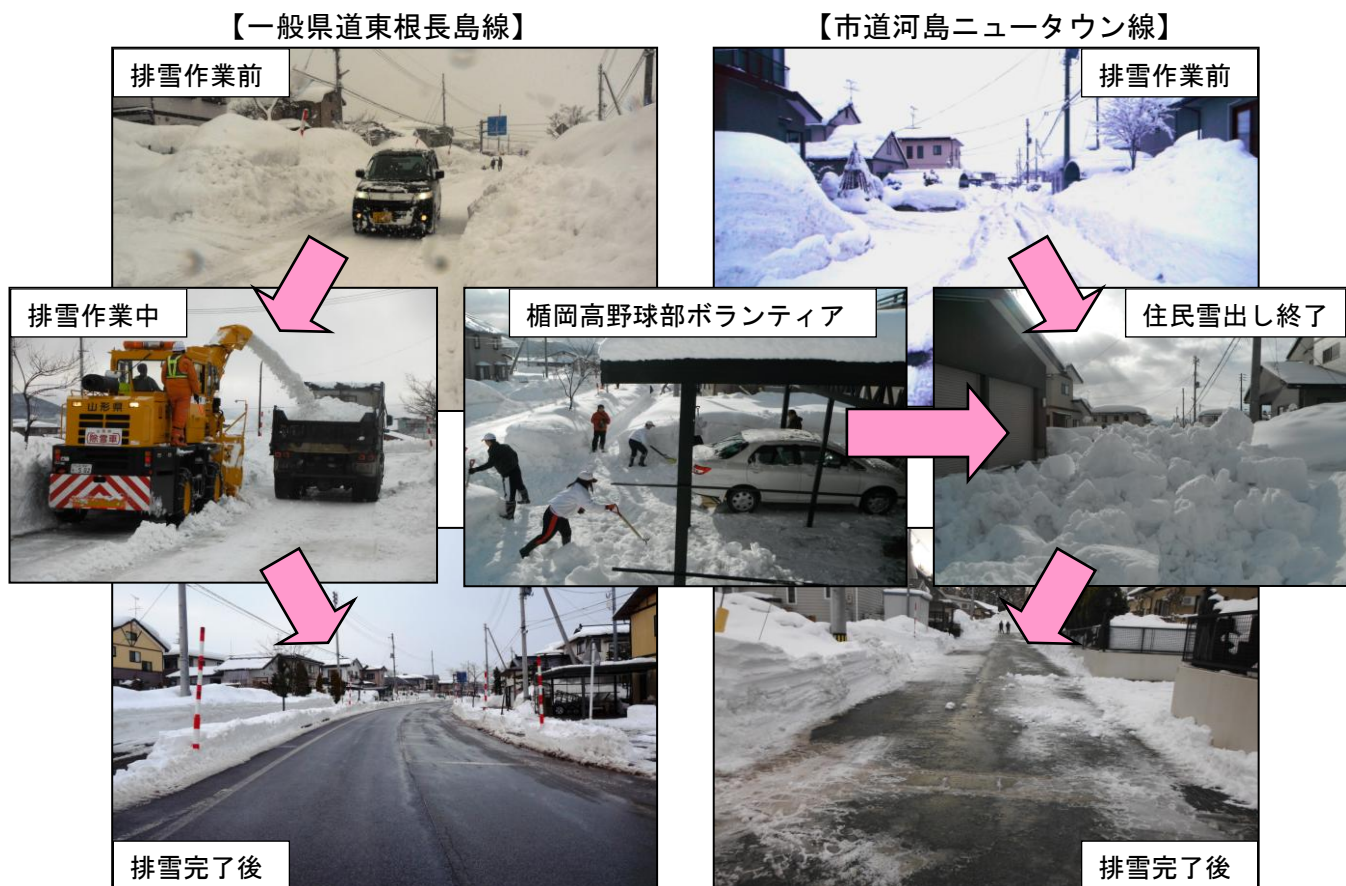


⑧ 官民協働一斉除排雪

住民と行政（道路管理者）が協働で行う除排雪作業

平成 27 年 1 月 26 日（日）に村山市河島山地区で、2 月 1 日（日）に村山市袖崎地区で実施を予定しておりましたが、いずれも少雪のため、中止となりました。

平成 25 年 1 月に実施した村山市河島山地区での官民協働一斉除排雪の状況は以下のとおりです。



協定締結地区

- ・ 村山市袖崎地区（平成 21 年 2 月 4 日締結）
- ・ 村山市河島山地区（平成 21 年 2 月 6 日締結）
- ・ 尾花沢市五十沢地区（平成 21 年 2 月 9 日締結）
- ・ 尾花沢市常盤地区（平成 24 年 1 月 4 日締結）

⑨ 事業活動巡回PR

県内7か所で、これまでの取組みを県民に紹介、PRしました。

○展示期間・会場

| | |
|--------------|--------------------------|
| 8月8日 | 雪氷防災研究センター新庄雪氷環境実験所（新庄市） |
| 8月11日～9月1日 | 新庄市市民プラザ（新庄市） |
| 9月2日～9月24日 | 庄内みかわ総合住宅展示場（三川町） |
| 9月24日～9月26日 | 最上広域交流センター「ゆめりあ」（新庄市） |
| 10月2日～10月31日 | やましんハウジングプラザ平清水（山形市） |
| 10月31日～12月1日 | イオン米沢店（米沢市） |
| 12月9日～12月15日 | イオンモール天童（天童市） |

○展示内容

・パネル展示

県内の雪むろ・雪冷房、雪氷熱エネルギーの利用、除雪ボランティア活動支援、官民協働一斉除排雪、やまがたゆきみらい大賞、親雪イベント、雪下ろし安全10箇条

・現品展示

雪に強い住宅モデル模型

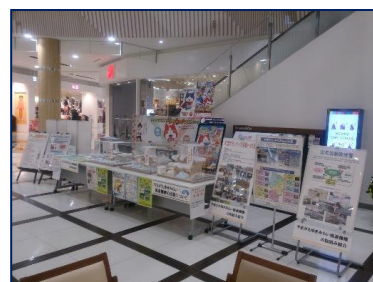
・雪国の住まいハンドブック、各種チラシの配布



【ゆめりあ】



【イオン米沢店】



【イオンモール天童】

⑩ やまがたゆきみらい大賞

「やまがたゆきみらい大賞」は、雪の地域資源としての活用や雪国の生活を克服する、先進的な、あるいは他地域への模範となる活動を通じ、地域おこしや雪国の快適な暮らしづくりに貢献している個人や団体の取組みに対し、活動の普及拡大や奨励を目的として表彰するもので、平成26年度（第7回）は、戸沢村の「戸沢村名高地区 除雪機班」を表彰しました。

～ 戸沢村名高地区 除雪機班 ～



冬季間、高齢者が最も不安な問題である除排雪について、除雪機械の共同利用により取り組まれ、地区内の高齢者の安心、安全を確保するとともに、地域の支え合い体制を自主的に形成している。

この取組みは、他の地区にも広がり、戸沢村のモデルとなっている。

⑪ 第7回こどもゆきみらいコンセプション

友達や家族と楽しく遊び親しんだ雪の記憶、そして雪と共存していく未来への思いを子どもたちの自由な発想と創造的な感性で絵画に表現することで、我が郷土「雪国やまがた」に誇りと親しみを持つ契機となることを目的とした絵画コンクールで、平成26年度で7回目の開催となりました。

○作品テーマ 「雪とみらいの私」

○応募資格 山形県内在住の小学生

○応募作品数 111 作品（低学年の部 35 作品、高学年の部 76 作品）

入賞作品 大賞2作品（低1／高1）・特選6作品（低2／高4）・入選6作品（低3／高3）

大賞

【低学年の部】



「幸せの雪だるまロボ」
大場 寿文 さん
(最上町立富沢小3年)

【高学年の部】



「未来のクリスマス」
瀧澤 悠香 さん
(米沢市立松川小6年)

特選

【低学年の部】



「ゆきのくにのほんやさん」

【低学年の部】



「みんなで楽しい雪あそび」

【高学年の部】



「未来のSNOWトレイン」

【高学年の部】



「みらいとし」

【高学年の部】



「二人の雪あそび」

【高学年の部】



「楽しい雪あそび」

入 選

【低学年の部】



「雪だるまとキャンプ」

【低学年の部】



「おねえちゃんと雪だるまを作ったよ」

【低学年の部】



「ぐるぐるスキーコース」

【高学年の部】



「雪の世界」

【高学年の部】



「雪だるまの世界」

【高学年の部】



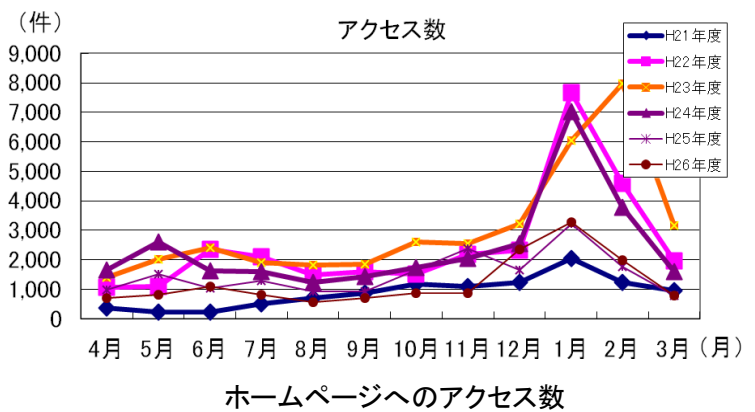
「氷のそり遊び」

※特選、入選作品の児童氏名は省略。

⑫ ホームページの運営

各種イベント情報の発信や雪対策に関する以下の情報を公開しています。

- ・雪氷熱エネルギー活用事例集
- ・安全な雪下ろし作業DVD
- ・雪国の住まいハンドブック
- ・屋根雪処理チェックシート
- ・県内の消融雪事業者の紹介
- ・雪むろマップ
- ・雪冷房マップ など



6. 役員名簿

平成 27 年 5 月 28 日現在

| 役職 | 氏名 | 所属・職名 | 備考 |
|---------|--|---|------------------|
| 会 長 | 飯 塚 博 | 山形大学工学部長 | |
| 副 会 長 | 桂 木 宣 均 | 日本地下水開発株式会社代表取締役 | |
| | 志 布 隆 夫 | 村山市長 | |
| | 加 藤 祐 悦 | 山形県村山総合支庁長 | |
| 運 営 幹 事 | 東 山 禎 夫 | 山形大学大学院理工学研究科教授 | 幹事長 ボランティア部会長 |
| | 横 山 孝 男 | 山形大学大学院名誉教授 | 利雪部会長 |
| | 山 畑 信 博 | 東北芸術工科大学建築・環境デザイン学科教授 | 克雪部会長 |
| | 赤 塚 信 一 | 村山市袖崎雪むろ研究会事務局長 (手打ちそば「ゆきむろ」店主) | 利雪部会 |
| | 浅 野 信 弥 | 村山市河島山地区自治会長 | ボランティア部会 |
| | 阿 部 修 | 国立研究開発法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター雪氷環境実験室 | 克雪部会 |
| | 池 田 隆 紀 | 東北産業株式会社工場長兼営業部長 | 利雪部会 |
| | 石 川 智 子 | 尾花沢市社会福祉協議会主事 | ボランティア部会 |
| | 漆 山 友 紀 | 山形県社会福祉協議会主事 | ボランティア部会 |
| | 大 滝 典 子 | 有限会社親和創建取締役トータルアドバイザー | 克雪部会 |
| | 桂 木 聖 彦 | 日本地下水開発株式会社常務取締役 | 克雪部会 |
| | 菅 藤 広 一 | 尾花沢市宮沢雪プロジェクト会長 (有限会社菅藤組代表取締役) | 利雪部会 |
| | 小 杉 健 二 | 国立研究開発法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター雪氷環境実験室長 | 利雪部会 |
| | 小 玉 勇 | 大石田町福祉ボランティアいこいの会除排雪班 (大石田町議会議員) | ボランティア部会 |
| | 後 藤 芳 英 | 後藤電子株式会社代表取締役 | 克雪部会 |
| | 二藤部 久 三 | 尾花沢市民雪研究会運営部会長 (株式会社成和技術専務取締役) | ボランティア部会 |
| | 沼 澤 貞 義 | 株式会社沼澤工務店代表取締役 | 利雪部会 |
| | 深 瀬 敏 | 公益財団法人山形県産業技術振興機構 産学官連携コーディネータ | 克雪部会 |
| 水戸部 和 久 | 山形大学大学院理工学研究科教授 | 克雪部会 | |
| 柳 橋 健 司 | 北村山建設総合組合組合長 (柳橋工務店代表) | 克雪部会 | |
| 矢 萩 浩 次 | 一般社団法人山形県建築士会村山支部長 (有限会社矢萩浩次設計事務所代表取締役) | 克雪部会 | |
| 会 計 幹 事 | 斉 藤 勤 也 | 山形大学工学部事務部会計課副課長 | |
| 監 事 | 仁 藤 剛 志 | 村山市政策推進課長 | |
| | 鈴 木 浩 | 尾花沢市定住推進課長 | |
| 事 務 局 長 | 五十嵐 和 昌 | 山形県村山総合支庁地域振興監 | |

※ 運営幹事については、各専門部会長を除き、50音順に記載しています。

7. やまがたゆきみらい推進機構の事業評価

1 事業評価の趣旨

やまがたゆきみらい推進機構（以下「機構」という。）が将来に向かって、その使命を果たすために、事業、組織、財政基盤について、効果・効率的な運営がなされているか現状を評価することにより、5年目を迎えた平成24年度に機構の今後の事業展開の方向性を定めるために実施した。

2 事業評価の手法

機構内に事業評価委員会（事務局：村山総合支庁北村山総務課・地域振興課）を設け、これまでの実績等を踏まえながら評価作業にあたった。

【事業評価委員会委員一覧】

| | | |
|-----|--------------------------|----------|
| 委員長 | 東山 禎夫（山形大学大学院教授 | ：学：米沢市） |
| 委員 | 沼野 夏生（東北工業大学教授 外部委員 | ：学：仙台市） |
| 〃 | 桂木 聖彦（日本地下水開発㈱常務取締役 | ：産：山形市） |
| 〃 | 二藤部久三（尾花沢市民雪研究会運営部会長 | ：産：尾花沢市） |
| 〃 | 浅野 信弥（村山市河島山自治会長 | ：民：村山市） |
| 〃 | 菅野他人男（尾花沢市雪対策・新エネルギー推進室長 | ：官：尾花沢市） |
| 〃 | 今田 秀喜（村山総合支庁地域振興監 | ：官：村山市） |

（合計7名：産2、学2、官2、民1）

3 評価・改善（対応）策の検討

下記(1)から(3)について、①現状把握、②課題抽出、③改善（対応）策の検討を行った。

(1) 事業評価について

機構が取り組んできた25事業について評価し、今後の事業展開・事業の見直し等を検討し、以下のとおり5段階の数値化にて評価を行った。

| | |
|----------------------|------|
| 5：県内外への普及拡大を図るべきである。 | ：6件 |
| 4：県内への普及拡大を図るべきである。 | ：3件 |
| 3：当面現状維持とするべきである。 | ：12件 |
| 2：事業休止とするべきである。 | ：0件 |
| 1：事業廃止（終了）とするべきである。 | ：4件 |

(2) 組織について

産・学・官・民の連携組織として村山総合支庁北村山総務課が事務局を担っている現在の組織について、今後の望ましい組織のあり方を検討した。

(3) 財政基盤について

持続可能な運営を展開するための財政基盤の確立に向けて、財源確保のあり方を検討した。

4 事業評価委員会による答申の内容

(1) 事業評価

| No. | 事業 | 評価 | |
|-----|--------------------------|----|---|
| 1 | 官民協働除排雪事業 | 3 | 地域内の要援護者世帯を支援する共助体制の構築やボランティアを活用し、参加世帯間の不公平感を解消するなどの問題点を整理したうえで、普及拡大のための住民説明会を開催していく。 |
| 2 | 除雪ボランティアのネットワーク化 | 4 | ネットワーク化を図るために、意見交換会を県内各地区で継続して開催し、県内に広く普及させていく。 |
| 3 | 雪かき塾 | 4 | 中高生の防災教育や地域教育として、県内の参加校の拡大及びネットワーク化を図っていくことが重要である。 |
| 4 | 雪かき指導者認定制度 | 3 | H24 に制度を創設する。 |
| 5 | 雪かき道場 | 1 | 雪かき体験交流会への支援に制度移行のために終了とする。 |
| 6 | 雪かき体験交流会への支援 | 3 | 地域間交流の一番の目的は、災害支援よりも人的交流であるので、交流活動の熟度を高めていく。 |
| 7 | 消融雪設備技術展示会・意見交換会 | 5 | 課題である低コスト化については、企業の取組の情報収集及び支援を行っていく。また、全国の先端をいく本県の技術を県内外に普及拡大を図っていく。 |
| 8 | 融雪槽の実証試験 | 1 | 実証試験は終了とする。融雪槽は全国的に普及していない状況であるが、有効な家庭もあるのでもう少しフォローを続けていく。 |
| 9 | 他エネルギー等を活用した融雪システムの可能性調査 | 3 | 下水熱利用の消融雪の普及は困難であるが、再生可能エネルギー活用の可能性を模索していく。 |
| 10 | 安全な雪下ろし作業等の普及啓発等 | 5 | 二年連続での豪雪による被害を撲滅していくには、これまでの取組みに加えて雪対策行政との連携を更に強化するとともに、メディアを活用したTV放映等を行い広く県内外に浸透させていく。 |
| 11 | 住宅モデル模型の制作と巡回展示 | 3 | モデル模型を参考にして住宅建築をした施主がどの程度いるのか、また参考とした施主から反応や改善要望が出てくるように問題点を整理し、効果が出るように課題を整理してから普及させていく。 |
| 12 | 屋根雪処理チェックシートの制作と啓発活動 | 3 | 屋根勾配と落雪飛距離が他県の事例なのでチェックが必要であるなど、内容を充実させていけば施主にはかなりの効果がある。また住宅建築時に施主と業者間で雪対策の話がないので、このチェックシートは役立つ。 |
| 13 | シンポジウム「雪と建築」の開催 | 4 | 一般の方の参加が少ない理由を考える必要がある。建築士会の勉強会という位置付けでも良いので、その中でチェックシートの活用法を検討しても良い。 |

| | | | |
|----|-------------------------|---|---|
| 14 | 雪に強い住宅作品のホームページ掲載 | 3 | 単純に掲載するのではなく、審査をして評価理由を付けて掲載したほうが問題が少ない。 |
| 15 | 雪に強い住宅作品のパネル展示会 | 3 | 単純に掲載するのではなく、審査をして評価理由を付けて掲載したほうが問題が少ない。 |
| 16 | 雪国の住まいハンドブックの制作 | 3 | 現在制作中のために、この取組を継続していく。 |
| 17 | 雪国の住まい・生活モニター事業 | 3 | 現在製作中のために、この取組を継続していく。 |
| 18 | 真夏の親子雪体験バスツアー | 5 | 雪氷防災研究施設は本州で二箇所しかない雪の調査研究施設なので、このツアーでPRし認知度を向上させていく。利雪部会が関与し、魅力ある企画をたてて参加者を増やす工夫が必要である。 |
| 19 | 再生可能エネルギー(雪氷熱エネルギー)普及啓発 | 3 | 県エネルギー戦略の施策の展開と連携を図っていく。雪氷グリーン熱証書を活用できる施設は県内ではないため、県民への普及促進でなく情報発信のみとすべきである。 |
| 20 | 地域おこし支援 | 3 | 今後も簡易雪むろ等への農産物貯蔵や保存方法等への技術支援が必要である。 |
| 21 | 自然薯の雪室長期貯蔵試験 | 1 | 長期貯蔵試験は終了とする。 |
| 22 | 雪の冷風を利用した靱乾燥試験 | 1 | 実用化試験は終了とする。 |
| 23 | やまがたゆきみらい大賞 | 5 | 表彰に値する団体がまだまだあるので、ボランティア活動団体等を含めて掘り起しが必要である。 |
| 24 | こどもゆきみらいコンセプト | 5 | 置賜地区を含めて県内全域からの応募がくるような対策が必要である。 |
| 25 | ホームページの管理運営 | 5 | アクセス数が増加しているが、内容充実を図り県内外に情報発信していく。 |

(2) 組織のあり方

- ・ 行政が多くなっている産学官民の組織のバランスを是正していくために、一般県民を中心とした会員の増加を図っていく。
- ・ 運営幹事会の三部会の組織を「克雪」・「ボランティア」・「利雪」部会に再編し、運営幹事会及び総会に諮問した上で、平成25年度から活動していく。
- ・ 事務局を北村山に置いているが、県内全域での活動を視野に、県内各総合支庁との連携の在り方を模索していく。

(3) 財政基盤の確立

- ・ 機構独自の財源を確保して事業展開を図っていくことは、現時点においては困難である。
- ・ 産学官民組織の機構が知恵を出して、行政が予算面で支援していく現在のスタンスを当面は継続していく。
- ・ 雪対策総合交付金制度に基づき、各市町村の取り組む事業について、これまでの機構の成果を基に強く支援していく。

(4) 全般について

- ・ 事業ごとに、平成28年度までの事業の方向性を定めていき、最終年度に事業評価委員会を開催し、社会情勢の変化や県民ニーズに即した次年度以降の事業展開の方向性を定めていく。

5 事業評価委員会の開催状況

(1) 諮問

平成24年7月13日

(2) 事業評価委員会の開催

第1回 開催日時：平成24年7月31日（火）

開催場所：村山総合支庁本庁舎

出席状況：委員7名中7名出席

第2回 開催日時：平成24年8月23日（木）

開催場所：村山総合支庁本庁舎

出席状況：委員7名中7名出席（内代理出席1名）

第3回 開催日時：平成24年10月5日（金）

開催場所：山形市市民活動支援センター

出席状況：委員7名中6名出席

(3) 答申

平成24年11月29日

豪雪地帯対策特別法に基づく豪雪地帯等の指定

| 区分 | 指定市町村 |
|--------|--|
| 豪雪地帯 | 山形市、上山市、天童市、山辺町、中山町、寒河江市、河北町、西川町、朝日町、大江町、村山市、東根市、尾花沢市、大石田町、新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村、米沢市、南陽市、高畠町、川西町、長井市、小国町、白鷹町、飯豊町、鶴岡市、酒田市、庄内町、三川町、遊佐町 (35市町村) |
| 特別豪雪地帯 | 上山市、西川町、朝日町、大江町、村山市、尾花沢市、大石田町、新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村、米沢市、南陽市、高畠町、川西町、長井市、小国町、白鷹町、飯豊町、鶴岡市（旧羽黒町、旧櫛引町、旧朝日村）、酒田市（旧八幡町）、庄内町（旧立川町） (26市町村) |



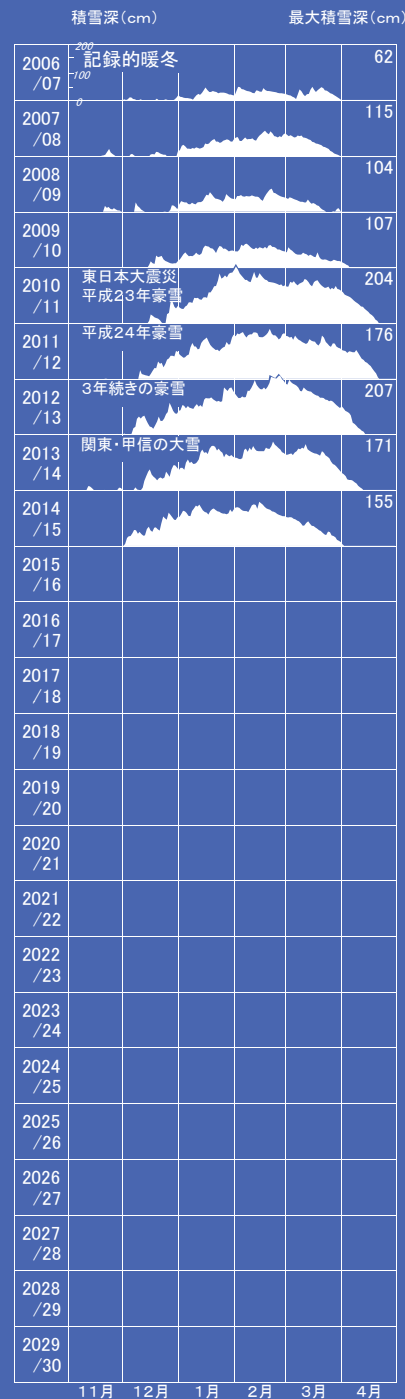
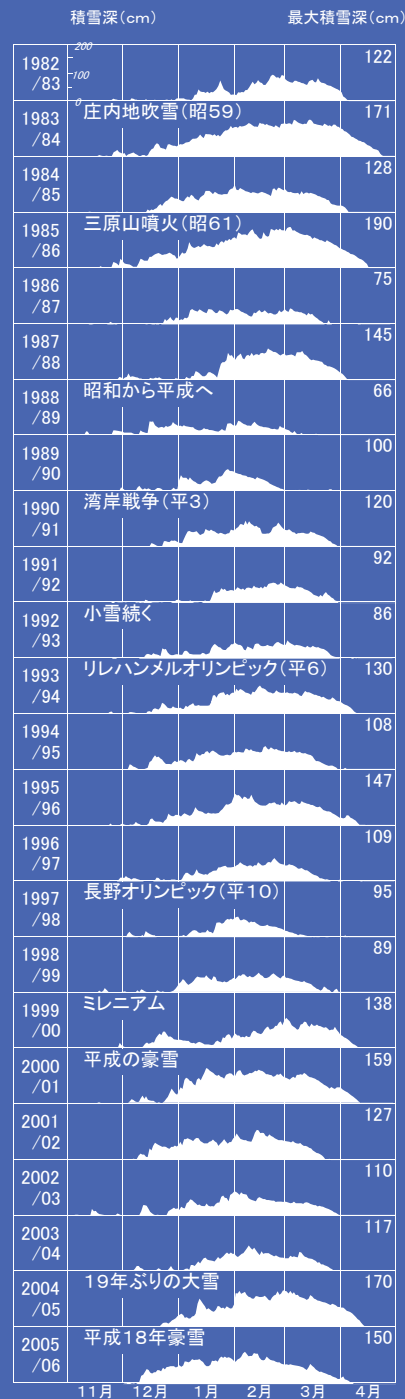
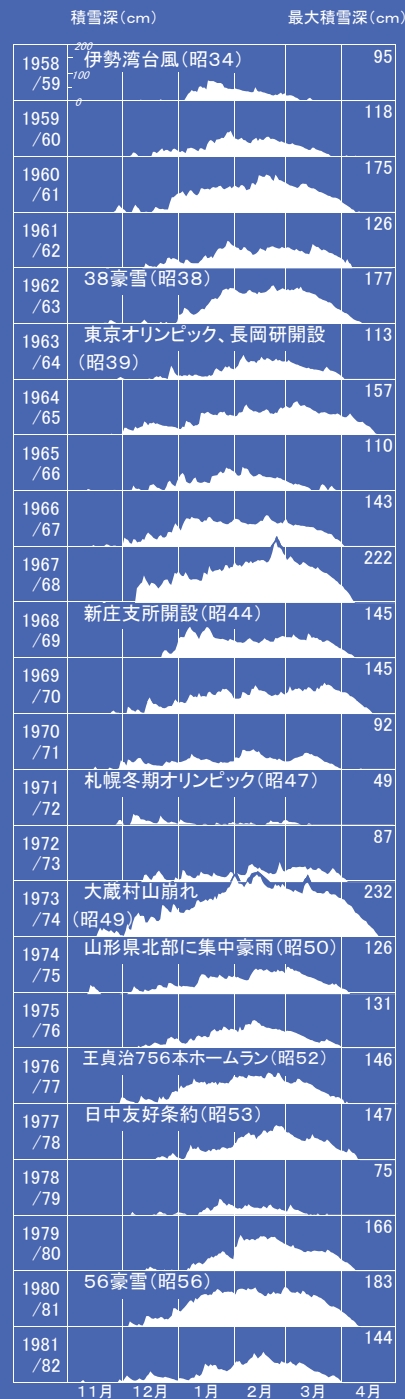
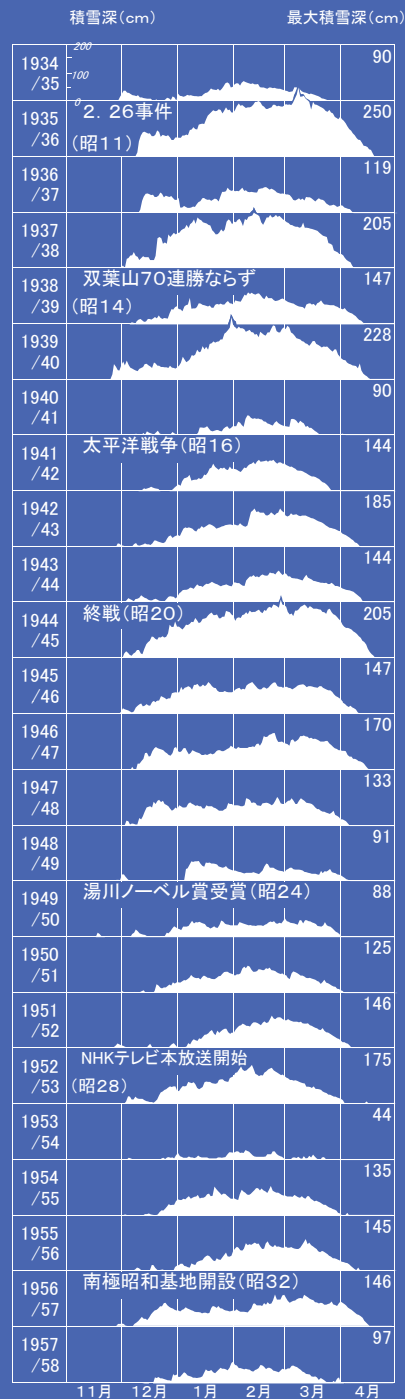
ゆきちゃん



みらいくん



ゆきみちゃん



新庄の積雪深の年変動

測定 1934年～1952年：(財)雪国協会新庄気象観測所
 1952年～1974年：気象庁新庄測候所
 1974年～：防災科学技術研究所

「やまがたゆきみらい推進機構」 設立趣意書

平成 19 年 10 月 12 日

| | |
|-----------------------|-------|
| 山形大学工学部長（当時） | 大場 好弘 |
| 東北芸術工科大学総合研究センター長（当時） | 上原 勲 |
| 雪氷防災研究センター新庄支所長（当時） | 佐藤 威 |
| 山形県消融雪システム研究会副会長（当時） | 桂木 聖彦 |
| 村山市長（当時） | 佐藤 清 |
| 山形県村山総合支庁長（当時） | 小松 幸勇 |

設立の趣意

県内全域が豪雪地帯である本県にとって、降雪がもたらす県民生活への影響を軽減するための「雪対策」は、科学技術の進歩した今日でも、未だ解決されない有史以来の重要な課題となっています。

本県をとりまく近未来の環境を俯瞰してみると、人口の過疎化と高齢化、自然環境の保全、雪国のハンディキャップ等はまさしく地域が直面する喫緊の課題であり、地域の実情やニーズを踏まえたきめ細かな対応が求められています。これまでも地域の雪対策として、雪国各地で具体的な試みがなされていますが、未だ確立した技術や手法を手に入れるまでには至っておりません。

こうした雪の課題に産・学・官・民が連携し、住民と協働して積極的に取り組むことによって、地域に適した先駆的な技術とシステムが確立されていくなれば、つらく厳しい雪国生活の様相を一変させることが期待されます。過疎化、高齢化への対応など、本県地域がいち早く突入する社会的状況を踏まえた先進的な雪対策の取り組みや技術開発を重点的、且つ、戦略的に展開することによって、総合的な雪対策のパイオニア的存在となり、快適な雪国地域の創造に寄与することができると考えます。

豊かな自然の恵みは、ときに優しく、ときに厳しくそこに生活するものたちを育ててきました。本県は、故松岡俊三代議員の雪害救済運動などの先人の活躍により、「雪対策施策発祥の地」として全国的な評価を受けているほか、各地域には雪に親しみ、雪と闘い、雪を利するさまざまな先人の知恵が残されています。まさに、雪対策の「メッカ」として発展する下地が整っている地域でもあります。したがって、地域の産学官民の力を結集して、広範な研究プロジェクトがさまざまな場面で展開されていく状況を作り出していくこと、そしてそれらの成果を発信していくことが大切と考えます。

私たちは、今こそ県民一人一人の英知と地域の潜在能力を引き出しながら、本県地域における雪対策の新しいうねりを起こす仕組みづくりを進めていきたいと思えます。最初に、地域の産業界、大学、行政などセクターを越えた人的なネットワークづくり(出会いの場)を行います。産・学・官・民の連携を契機にして、さまざまな交流の輪となり、やがて克雪技術の研究などの特定の目的を持ったグループが息吹となり、それが形となった成果を発表し、普及、啓発を行っていくことを目指します。すなわち、雪関連の人材ネットワークを基盤にししながら、快適な雪国生活をしていくための雪対策の情報発信基地となるものです。

私たちは、これを「やまがたゆきみらい推進機構」として設立します。



やまがたゆきみらい推進機構事務局

〒995-0024 村山市楯岡笛田四丁目5番1号

山形県村山総合支庁総務企画部北村山総務課北村山地域振興室内

電話：0237-47-8609・8614/FAX：0237-55-5236

メール：ykitamurasomu@pref.yamagata.jp

やまがたゆきみらい推進機構ホームページ

<http://yamagatayukimirai.web.fc2.com> 又は「やまがたゆきみらい」で検索